

人類の良心への宣言

カウンターパンチ・ニュースサービス

2026 年 4 月 10 日

国際学者で国連人権特別報告官などを務めたアメリカのリチャード・フォーク氏ら世界 30 カ国の元外交官や学者や知識人ら 170 人が公開書簡を発表し、アメリカのイラン侵略を厳しく批判し、イランの防衛戦争への全面支援と、イランが示した停戦条件への支持を表明、各国の主権の擁護と西側支配への抵抗を中心とした新たな国際秩序を求めて立ち上がるよう呼びかけた。

人類の良心への宣言

要旨

世界は今、力による支配が復活する危機に直面している。アメリカは建国以来、先住民虐殺や奴隷制、各地での戦争介入を通じて暴力と略奪の歴史を積み重ね、現在もガザやイランに対する攻撃を続けている。こうした行為は文明が克服したはずの野蛮の再来であり、世界は重大な岐路に立たされている。イランは能動的抑止によってアメリカの一極支配に挑み、主権と正義を守る最後の防壁となっている。戦争終結には、再侵略防止の保証、米軍基地撤去、侵略の認定と賠償、即時停戦、ホルムズ海峡の主権確認、加害者の訴追が不可欠である。私たちは正義の側に立ち、傲慢な支配を終わらせるため世界に行動を呼びかける。

以下本文

世界中の人々、思想家、学者、そして正義を信じる人々へ。

今や人類の良心には、「篡奪権力（力による支配）の復活」という不気味な影が広がり、もはや見過ごすことができなくなっている。

アメリカ合衆国は 1776 年の建国以来 249 年間、まるで文明以前の暗い時代に属するかのような残虐の記録を積み重ねてきた。それは、数々の民族の屍の上に築かれた略奪的な帝国である。先住民およそ 500 万人の虐殺、400 万人以上のアフリカ人の苛烈な奴隷化、そしてジム・クロウの時代に 4,000 人を超える黒人市民がリンチで殺された歴史が、その証だ。

アメリカは、90 を超える国と地域に 800 以上の軍事拠点を置き、その土地を汚染しながら、徹底した“略奪の doctrine (教義)”を育ててきた。ベトナムでは大量虐殺の惨劇で 300 万人以上が犠牲となった。カンボジアでは米国が支援した暴力によって 200 万人が命を奪われ、朝鮮半島では 400 万人を超える韓国・北朝鮮の人々が殺され、さらにイラク、リビア、シリア、アフガニスタンでは、米軍の攻撃によって 100 万人のイラク人と数万人のリビア人が炎の中で命を落とした。

かつて世界を動かしていた理性的な秩序は、人類がこうした野蛮な行為を乗り越えることを助けてきた。人類はこの残虐さを歴史の彼方へと葬り去ったはずだった。しかし今、私たちはその復活を目の当たりにしている。

ガザでは、ジェノサイド的なイスラエル政権への継続的な支援のもと、人々が組織的に焼き尽くされる状況が続いている。パレスチナでは 7 万 7 千人を超える民間人が殺されている。この規模の惨劇は、私たちに否応なく一つの現実をつきつけている。人類が捨て去ったはずの文明以前の野蛮な行為が再び戻ってきており、アメリカ・ワシントンはそれを進んですすめる実行者となっているのだ。

これは「すべては自分たちのため、他人には何も与えない」という悪魔的な信条である。恥知らずな強欲さで、ベネズエラの石油、グリーンランドの鉱物資源、カナダのエネルギー資源など、世界の資源を「自らの当然の権利」と主張してきた。そして今、その貪欲な目はイランにむけられている。世界の鉱物・エネルギー資源の 7% 以上を所有するイランは、略奪の最後のフロンティアと見なされている。

しかし、これはもはや経済の問題ではなく、名誉の問題である。世界は今、アメリカが「ラマダン戦争」と呼ばれる犯罪事業に積極的に関与してイラン国民を攻撃していることを目撃している。この継続的な虐殺はすでに 208 人の無実の子どもたちの命を奪った。世界はこの日を記憶すべきだ　そのうち 168 人はイランのミナブ市にあるシャジャレ・タイイエベ学校の少女たちであり、彼女たちは教室の中で、アメリカが指示したテロによって命を奪われた。

無意味で絶望的な彼らの策謀は、いわゆる「政権転覆」とイランの分裂を狙うものであり、国の主権を奪ったうえで、資源を体系的に略奪しやすくすることを目的としている。この究極の墮落を追い求める中で、アメリカはイランの精神的・知的指導者であり、傲慢とテロに抗う声として国際的にいられていたアヤトラ・セイイド・アリー・ハメネイ師とその家族を容赦なく殺害した。

彼らはイラン国家の中枢を狙ったテロ戦争攻撃を続けてきた。これまでに、アメリカの侵略によって 39 人のイラン要人が犯罪的に殺害された。その中には、国家安全保障最高評議会書記であり、有能な人物として知られたアリ・ラリジャニ氏も含まれる。

いまやその傲慢さは極限に達している。アメリカ大統領は、イラン国民に対し、エネルギーインフラを破壊すると公然と SNS で脅している。これは、衰退しつつある文明の墮落した精神そのものだ。西側の道徳的崩壊は、トランプ氏という人物に体現されている　この 2 年間の破滅的な行動は、世界だけでなく、彼自身の国民さえも疲弊させてきた。いまこそ声をひとつにして宣言すべき時だ。もうたくさんだ。略奪の時代は終わった。

しかし、アメリカは致命的な誤算を犯した。アメリカの前に立ちはだかっているのは、ただの国ではない。自らの DNA を武器化した文明　古代から受け継がれた組織をうまく動かす力と、21 世紀の科学を他国に頼らず自らすすめる力を組み合わせた存在である。

これこそが、イランが実践する「能動的抑止」の現実だ。世界的な一極として、交戦の条件そのものを規定し、能動的防衛のルールを書き換えることで、

相手に戦略的後退を強いている。そして今、変化に合わせて動く力と長く続いてきた文明、そして社会が一つにまとまる力がしっかりと結びつき、破壊することができない単一の力になっている。

イランのあらゆる分野の防衛力と、積極的な抑止力は、世界的な覇権を終わらせるための絶好の機会である。イランの歴史的・文明的な教義は明確だ。力を持つことは正しさを意味せず、支配は正義の土台にはなりえない。この考えこそが、イランの無敵性を支える基盤として認識されている。

世界は、この歴史的な転換点を活かすことができる。つまり、この「解放の教義」によって、支配と抑圧はどこであっても終わらせることができるということである。

アメリカとイスラエルが「自分たちは特別だ」という考えで行動してきたために、世界は今、力がすべてか、それとも正義を大事にするか、主権を守るか従属するか、人間の尊厳を守るか恥辱を受けられるかの選択を迫られている。いまこそ人類には別の道があることを認識する目覚めの時にしなければならない。世界中の人々が、自分たちにできるあらゆる力を使って、生存権を含むあらゆる道徳的価値を冒涇するグローバルシステムの構造に全力で立ちむかわなければならない。

イランは最後のフロンティアだ。もしそれが陥落すれば、より良く啓蒙された未来の世界への希望も消えてしまう。そんなことを許してはならない。イランに対する侵略は、私たち全員を抑圧するグローバルパワーシステムの一部だ。傲慢な権威主義が暴走するのを傍観していることはできない。私たちの未来はイランの成功にかかっている。

だから私たちは、この戦争を「前の状態に戻すだけ」に終わらせてはならない。これほどの苦痛を与えた者たちは、相応の重い責任を取らせなければならない。そして、軍事力があるからといって、世界の平和と安全を守るための法律を守らなくてよい、ということにはならないということを思い知らさなければならない。そのために私たちはイランが戦争終結のために提示した条件を支持する。

世界的な正義という観点から見れば、この戦争を終わらせるための条件は絶対であり、いかなる交渉の余地もない。

- 1) 侵略を二度と繰り返さないための確実な保証と、将来の攻撃を防ぐ国際的な拘束力ある取り決め。
- 2) 地域にあるすべての米軍基地の即時撤去。
- 3) 侵略行為の正式な認定、国際社会による加害者への非難、そして生命と財産に対する完全な賠償。
- 4) 地域のすべての戦線での即時終戦。
- 5) ホルムズ海峡について、イランの主権を認める新たな法的枠組みの確立。
- 6) 今回の流血をとおった反イラン系メディア関係者の訴追と引き渡し。

私たちは、この声明に賛同する者として、世界中の思想家、研究者、良心ある諸機関、そして正義を求める人々に呼びかける。

- 国際的な取り決めに軽視し続け、歴史的な野蛮さへと逆戻りしているアメリカ合衆国を、明確かつ断固として非難すること。
- 現在も続く人道に対する罪に対し、アメリカという“ならず者国家”を外交的・経済的に孤立させること。
- 理由なき攻撃に対して、イランが“積極的な抑止力”を行使する固有の権利を認めること。
- アメリカおよびアメリカが支援するテロ行為を即時に停止させ、その指示を出した者たちを裁くよう求めること。

歴史はこれまでも、沈黙を拒んだ者たちの勇気を必ず記録してきた。私たちは正義の側に立つ。それは、ただの傍観者としてではなく、傲慢が崩れ、正義が勝つ新しい世界を自らつくり出す主体としてだ。傲慢は解体されなければならない。世界がそれを求めている。そして正義が、それを実行する。

連帯の署名;

リチャード・フォーク(アメリカ合衆国)

プリンストン大学国際法名誉教授であり、2008年から2014年まで国連占領パレスチナ地域人権特別報告者(2008年-2014年)。国際法およびグローバル政治に関する50冊以上の著書または編集者

デニス・ハリデイ(アイルランド)

元国連事務総長代理兼イラク人道調整官、ガンジー国際平和賞(2003年)

ノーマン・フィンケルスタイン(アメリカ)

国際的に非常に著名な政治学者であり、ホロコースト生存者の両親の息子であり、中東の政治論争で広く引用・認知されています。デポール大学、プリンストン大学、ラトガース大学、ニューヨーク大学の元教授

アヴィ・シュレイム(イギリス)

オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ国際関係学名誉教授・歴史家、生涯功労に対して英国アカデミー・メダル(2017年)、歴史執筆に対してPENヘッセル・ティルトマン賞(2024年)を受賞

ハンス・フォン・スポネック(ドイツ)

元国連事務次長およびイラク人道担当国連人道調整官

アラン・ド・ブノワ(フランス)

国際的に認められた哲学者・エッセイストで、政治理論、哲学、宗教史、文化批評にまたがる研究を行い、リベラリズム、普遍主義、現代の平等主義イデオロギーへの批判に焦点を当てています

クリス・ウィリアムソン(イギリス)

元影のコミュニティ・地方自治大臣(2010年から2013年)、元国会議員(7年間)、元ダービー市議会リーダー

ボアベントゥラ・デ・ソウザ・サントス(ポルトガル)

世界で最も国際的に引用されている社会学者の一人であり、コインブラ大学経済学部の社会学名誉教授、ウィスコンシン大学マディソン校ロースクールの特別法学者、世界社会フォーラムの創設者および「南部の認識論」の概念、フランツ・ファノン生涯功労賞(2022年)、カルヴェン賞、ジャブティ賞、グルベンキアン科学賞を受賞しています

ジャン・ブリクモン(ベルギー)

国際的に引用されている理論物理学者・科学哲学者、ルーヴァン・カトリック大学教授、『Fashionable Nonsense』や『Humanitarian Imperialism』など複数の著書の著者・共著者

デュドネ(フランス)

国際的に認められたアーティスト兼スタンドアップコメディアン、25 本以上の一人芝居の著者、風刺コメディへの貢献により 2000 年にグランプリ・ド・ラ・ユーモア・ノワールを受賞

ハミド・アルガー(アメリカ合衆国)

カリフォルニア大学バークレー校ペルシャ研究名誉教授、キング・ファイサル賞受賞者

オヤ・バイダル(トルコ)

1980 年のトルコクーデター後に長年政治亡命生活を送った象徴的な小説家で社会学者で、その後帰国して文学活動を続けました。小説、文学、短編小説、文化分野で 5 つの賞を受賞しています

フィリップ・ジラルディ(アメリカ)

対テロ専門家・コラムニスト、非営利・超党派の反戦擁護団体「国益評議会(CNI)」のエグゼクティブ・ディレクター、ベテラン情報専門家の正気を目的としています。

イマーム・スハイブ・ウェッブ(イギリス)

ボストン・イスラム文化センターの元イマーム、ニューヨーク大学イスラムセンターの元常駐研究員、エラ・コリンズ研究所の創設者、ロイヤル・イスラム戦略研究センターによる世界で最も影響力のある 500 人のムスリムの一つ(2010 年)、プラス・クレセント賞より年間最優秀ムスリムブログおよび最優秀ムスリムツイート者賞を受賞

シンシア・マッキニー(アメリカ合衆国)

ジョージア州で 6 期務めた元下院議員、ノースサウス大学助教授兼外務局長；平和・人権に関する様々な賞(例:平和擁護賞)を受賞

アン・ライト(アメリカ合衆国)

陸軍大佐であり元米国外交官で、2003 年にイラク戦争に反対して辞任した法学者

モハメド・アズミ・アブドゥル・ハミド(マレーシア)

マレーシア・イスラム組織諮問評議会会長

ロシャン・ベイグ(インド)

カルナータカ州議会の元 7 期議員、元内務大臣、元都市開発大臣、元インフラ大臣

サイード・レザ・アメリ(イラン・イスラム共和国)

テヘラン大学コミュニケーション・グローバル研究の正教授、ユネスコサイバースペース・文化チェアの実任者、世界学部の創設者兼学部長、『サイバースペース研究ジャーナル』編集長、イラン科学アカデミーおよび 2 つの高等国家文化評議会の会員

ハイム・プレシート(イギリス)

イーストロンドン大学 SOAS スクールの映画・メディア・文化研究・視覚文化の退職教授、公共問題における誤表象反対キャンペーン

モハマド・マランディ(イラン・イスラム共和国)

テヘラン大学英文学、オリエンタリズム、アメリカ研究の正教授

アジャム・バラカ(アメリカ)

2016 年 グリーン党副大統領候補、反植民地主義闘士、米国黒人解放運動の退役軍人、ブラック・アライアンス・フォー・ピース創設者

ビジャン・アブドルカリミ(イラン・イスラム共和国)

哲学者であり、10 月 7 日以降の著名な知識人。存在論と政治哲学に注力し、イスラム・アザード大学の哲学准教授マルティン・ハイデッガーの思想を専門としました

ダウド・アブドゥラ(英国)

中東モニターのディレクターであり、英国ムスリム評議会の元副事務総長

ヴィジャイ・ブラシャド(インド)

トリコンチネンタル社会研究所の所長、LeftWord Books 編集者、Globetrotter のチーフ特派員、中国人民大学の上級フェロー、米国のイスラエル学術・文化ボイコットキャンペーン諮問委員会メンバー、インド左翼フォーラム共同設立者、ムザッファル・アフマド書籍賞

ラモン・グロスフォゲル(アメリカ合衆国)

社会学者であり、カリフォルニア大学バークレー校民族研究学科名誉教授

ローレンス・デイヴィッドソン(アメリカ合衆国)

ウェストチェスター大学(WCU)中東史名誉教授

デイビッド・ミラー(英国)

社会学者でストラスクライド大学、バース大学、ブリストル大学の元教授、Spinwatch 共同ディレクター

アッバス・エダラット(イギリス)

インペリアル・カレッジ・ロンドンのコンピュータサイエンス・数学教授であり、科学芸術財団(SAF)および制裁・軍事・帝国介入反対キャンペーン(CASMI)の創設者

ダイナ・シェルトン(アメリカ合衆国)

ジョージワシントン大学ロースクール国際法名誉教授;米州人権委員会の元委員兼委員長(2010-2014年)、エリザベス・ハウブ環境法賞(2006年)、国際環境法賞(2016年)

ジョディ・ディーン(アメリカ)

政治理論家であり、ホバート大学およびウィリアム・スミス大学教授、元エラスムス大学ロッテルダム哲学部人文学教授

ピーター・リンブ(アメリカ)

ミシガン州立大学の国際的に著名な歴史家および教授

マイケル・マルーフ(アメリカ)

元国防長官室上級安全保障政策アナリスト

マイケル・スプリングマン(アメリカ合衆国)

元ドイツおよびサウジアラビアの外交官、弁護士・法務顧問、法学博士

アウグスト・シナグラ(イタリア)

ローマ・サピエンツァ大学国際法名誉教授

サイド・サダトゥッラー・フサイニ(インド)

インド最大のムスリム系組織(ジャマート・エ・イスラミ・ヒンド)の大統領

アンジェロ・ドルジ(イタリア)

トリノ大学哲学史家および政治教義史名誉教授

シベル・エドモンズ(アメリカ)

米国政府機関内の汚職と情報機関の失敗を暴露し、PEN/ニューマン自身の第一修正賞(2006年)、サム・アダムズ情報誠実性賞(2012年)を受賞

ケビン・B・マクドナルド(アメリカ合衆国)

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(CSULB) 進化心理学名誉教授

アルベルト・ブラダニーニ(イタリア)

国連地域間犯罪・司法研究所および国連犯罪・薬物研究所元所長、元テヘラン
および北京大使、イタリア現代中国研究センター所長

ジェームズ・H・フェッツァー(アメリカ)

ミネソタ大学ダールズ校 科学哲学名誉教授マクナイト

ピエロ・ベヴィラクア(イタリア)

歴史家、ローマ・サピエンツァ大学現代史教授、34冊の著書

クラウディオ・ムッティ(イタリア)

ボローニャ大学の元教授、「ユーラシア・リヴィスタ・ディ・スタディ・ジオ
ポリティキ」の所長

シッディクッラー・チョードリー(インド)

西ベンガル州議会議員、全インドトリナムール会議(AITC)のメンバー

クラウディオ・モッファ(イタリア)

テラモ大学国際関係史の元教授

マリア・プミエ(フランス)

ハバナ大学教授、元パリ大学(ソルボンヌ)教授、ドキュメンタリー制作者

ブルーノ・ドルウェスキ(フランス)

パリ市庁国立東洋言語文明研究所およびパリ地政学アカデミー名誉教授

パウリナ・アロチ・フーゲリエ(メキシコ)

メトロポリタン自治大学人文学部 正教授

ムニャラジ・ムシヨンガ(南アフリカ)

脱植民地国際ネットワーク(DIN)グローバル学術ディレクター、フリーステ
ート大学准教授

ムフティ・ムカラム・アーメド(インド)

宗教的・文学的学者、インドで2番目に大きなモスク(シャーヒー・マスジ
ド・ファテフプリ)のイマーム

アラン・コルヴェ(フランス)

フランス陸軍大佐、元国防顧問、南レバノン国連軍司令官副司令官、国際問題
顧問

ジョディ・エヴァンス(アメリカ)

反戦団体コード・ピンクの共同創設者、映画製作者、レインフォレスト・アクション・ネットワークの元理事長

ジャン・ルイ・ポワリエ(フランス)

哲学者、歴史家、翻訳者

ズラトコ・ハジディディッチ(ボスニア・ヘルツェゴビナ)

政治学者であり、サラエボのナショナリズム研究センター所長

エリザベス・マレー(アメリカ)

国家情報評議会の近東担当副国家情報官、ベテラン・インテリジェンス・プロフェッショナル・フォー・サニティ(VIPS)のメンバー

ペペ・エスコバル(ブラジル)

アジアタイムズ、Mondialisation.ca、カウンターパンチ、アルジャジーラ、RT、スポーツニク、ストラテジックカルチャー財団、グアンチャに寄稿した地政学アナリスト兼ジャーナリスト

ロドニー・シェイクスピア(イギリス)

経済学者、トリサクティ大学客員教授、二元経済学の専門家

サルマン・フサイニ・ナドウィ(インド)

多数の宗教、医学、IT および工学の大学や病院の創設メンバー兼会長、イスラム科学の学者・教授、多数の学術著作の著者、ジャミアト・シャバブ・ウル・イスラムの会長、英語、ウルドゥー語、ペルシャ語、アラビア語で 13 の異なる定期刊行物の編集者および共編集者

ラルフ・ボッシュャール(スイス)

欧州安全保障協力機構事務総長軍事顧問

ダニエル・エストゥリン(リトアニア)

作家で国際的な講演者、『ビルダーバーグ・グループの真実の物語』の著者

ピーター・ケーニッヒ(スイス)

世界銀行、世界保健機関、スイス開発協力機構で 30 年以上の経験を持つ経済学者・地政学アナリスト

イブラヒム・ベティル(トルコ)

トルコ教育ボランティア財団の創設会長、実業家・社会起業家、テクフェン・ホールディングの元 CEO、複数のトルコ市民社会および慈善賞を受賞

トミー・シェリダン(スコットランド)

2026年スコットランド議会選挙グラスゴー選挙候補、元国会議員、元スコットランド社会党議長、元グラスゴー市議会議員、元連帯組織コンバイナー

クリストフ・ヘルステル(ドイツ)

著者・安全保障、NATO政策、地政学、ドイツ外交政策の専門家、広報担当

サラ・フラウンダーズ(アメリカ)

国際行動センター共同所長兼事務局労働者世界党メンバー

ケビン・J・バレット(アメリカ)

アラブ学者・イスラム学者、元ウィスコンシン大学マディソン校教授

ザキア・ソーマン(インド)

グジャラート大学ビジネスコミュニケーションの元教授、女性の権利に関するバラティア・ムスリム・マヒラ・アンドラン(BMMA)創設者、南アジア貧困撲滅同盟(SAAPE)のメンバー

スティーブン・サイザー(イギリス)

サリー州バージニア・ウォーターのクライストチャーチの元牧師であり、ピースメーカー・トラストの理事

マイケル・ジョーンズ(アメリカ) インディアナ州セントメアリーズ大学英文学教授、Culture Wars Magazine 創設者

ティム・アンダーソン(オーストラリア)

政治経済学者、カウンター・ヘゲモニック・スタディーズ・センター所長、シドニー大学の元上級講師

ピアーズ・ロビンソン(英国)

シェフィールド大学、マンチェスター大学、リバプール大学で政治ジャーナリズム、国際政治・政治コミュニケーションの元教授、プロパガンダ研究機構共同ディレクター、国際9/11正義センター研究ディレクター

ピノ・カブラス(イタリア)

イタリア議会外務委員会元副委員長

ジャン・ミシェル・ヴェルノシェ(フランス)

元ル・フィガロ誌ジャーナリスト、作家、地政学分析家

アンジェロ・ペルシアニ(イタリア)

元ウズベキスタン、タジキスタン、スウェーデン大使

ギジェルモ・バレット(ベネズエラ)

シモン・ボリバル大学生物生物学部の生物学者であり、退職正教授、そしてトリコンチネンタル社会研究所の研究者です。

マテウシュ・ピスコルスキ(ポーランド)

シュチェチン大学およびヤン・ドゥウォシユ大学の元教授、欧州地政学分析センターの共同設立者、西欧連合議会のポーランド議会元議員

デクラン・ヘイズ(アイルランド)

東京上智大学の退職教授

アニスル・ラフマン・カスミ(インド)

学者、コミュニティリーダー、全インド民会議の元副会長、イスラム法学講師

デイブ・スミス(オーストラリア)

英国国教会の司祭、社会教育者、ボクサー、2022年連邦選挙候補 – 統一オーストラリア党(グラインドラー)

アラン・マーティン(オーストラリア)

ポストコロナル研究所(IPCS)編集長、メルボルン大学教授、グローバル・セキュリティ財団エグゼクティブ・ディレクター、ポストコロナル・スタディーズ編集長

デイヴィッド・ロヴィックス(アメリカ)

シンガーソングライター、ミュージシャン。アメリカの戦争、グローバリゼーション、アナーキズム、社会正義、労働史に焦点を当て、ASCAP ディームズ・テイラー賞

ヴィト・ペトロチェッリ(イタリア)

イタリア上院外交委員会元委員長、AntiDiplomatico 編集部長、

ディレク・ベクタシュ(トルコ)

ミマル・シナン美術大学の退職教授

ヴェイセル・ディンラー(トルコ)

ヒティト大学法学教授

クリスチャン・ブーシェ(フランス)

人類学者、元政治家、反戦活動家

ハジェル・アンサル(トルコ)

イシュク大学社会学教授、社会理論とジェンダーの専門家

デニヤル・イエギッチ(レバノン)

レバノン・アメリカン大学コミュニケーション学科のコミュニケーション教授

バヴェウ・モシツキ(ポーランド)

ポーランド科学アカデミー教授、哲学者、エッセイスト、イニー・スヴィアトポッドキャストのホスト

ヴァネッサ・ビーリー(フランス)

シリアを拠点とする中東問題の写真家および独立ジャーナリスト

マスード・シャジャレ(イギリス)

イスラム人権委員会ロンドン委員長、国連経済社会問題局の諮問資格を有しています。

Zeki Kılıçaslan(トルコ)

イスタンブール大学医学部胸部疾患教授、社会正義擁護者

サンデウ・ヒラ(オランダ)

脱植民地主義理論で知られる脱植民地国際ネットワークの創設者であり、国際科学研究所の所長

ポール・ラルーディー(アメリカ)

自由ガザ運動および自由パレスチナ運動の創設者、国際連帯運動のメンバー、2010年ガザ自由船団の共同スピーカー

イヴォンヌ・リドリー(イギリス)

欧州ムスリム連盟事務総長、2026年スコットランド議会選挙グラスゴー選挙候補、国際ムスリム女性連合元会長

コンラッド・レカス(ポーランド・スコットランド)

ノッティンガム・トレント大学講師、ポーランド YES スコットランド代表

ジェームズ・パーロフ(アメリカ)

著者、研究者、そして『The New American』誌の元編集長

リュシアン・セリーズ(フランス)

『Governing by Chaos』の著者、反戦活動家、地政学分析家

ユルゲン・カイン・キュルベル(ドイツ)

犯罪学者、調査報道記者、ハリリ暗殺におけるイスラエルの役割に関する著書

キャロル・ブルイエ(アメリカ)

平和活動家であり、北カリフォルニア 9-11 真実同盟の共同設立者、カリフォルニア州の米国議会グリーン党候補(2006年、2008年、2012年)

ドガン・ベルメク(トルコ)

アレヴィ哲学センター協会会長、トルコアラヴィ連盟元会長

ジル・ムニエ(フランス)

調査報道記者であり、フランス・イラク友好協会の事務総長

レベッカ・シュート(アメリカ)

国際弁護士、国際刑事裁判所ワシントン作業部会共同招集者および国際司法機関強化のためのImPact 連合共同招集者

レオニード・サヴィン(ロシア)

2008年からは『Geopolitika.ru』編集長、『ユーラシア問題ジャーナル』の創設者兼編集長

リッチ・シーゲル(アメリカ)

ピアニスト、ソングライター、作家、平和活動家であり、2015年のニュージャージー州グリーン党の政治候補者

ゴードン・ダフ(アメリカ)

元イラク国連外交官、ベトナム戦争海兵隊員

マリオン・シゴー(フランス)歴史

家、エッセイスト、フランス史・政治思想研究者

ケイレブ・モーピン(アメリカ)

政治イノベーションセンター創設者、ジャーナリスト

ジェイコブ・コーエン(フランス)

学者、小説家、反戦活動家

ケン・オキーフ(アメリカ・アイルランド)

元海兵隊および湾岸戦争の退役軍人、反戦活動家

ライナー・ラップ(ドイツ)

経済学者・ジャーナリスト

トマ・ヴェルレ(フランス)

ムーヴメント・フランス・レジスタンスの指導者

ドラガナ・トリフコヴィッチ(セルビア)

地政戦略研究センターの事務局長およびユーラシアメディアフォーラム会長

フェローズ・ミティボルワラ(インド)

コラムニストであり、インド・イラン友好フォーラムの創設者

イマーム・ムハンマド・アル・アシ(アメリカ合衆国)

ワシントン・イスラムセンターの元イマーム、現代イスラム思想研究所の
研究員

ベネデット・リゴリオ(イタリア)

ローマ・サピエンツァ大学哲学科助教授

ラニア・マスリ(アメリカ)

ノースカロライナ環境正義ネットワーク共同ディレクター

ハイデ・ガルシア・ブラボ(メキシコ)

メキシコ国立自治大学(UNAM)科学・人文学際研究センター准研究員

ホセ・ガンダリラ・サルガド(メキシコ)

メキシコ国立自治大学(UNAM)科学・人文科学学際研究センター上級研究員

フィアン・カニンガム(アイルランド)

ストラテジック・カルチャー・ファウンデーションの著者・ジャーナリスト

マルゲリータ・フルラン(イタリア)

ジャーナリストおよび Casa Del Sole TV のディレクター

エヴァ・パートレット(カナダ-アメリカ)

独立系ジャーナリスト、戦争特派員、中東紛争に焦点を当てた活動家

テシャ・テシャノヴィッチ(セルビア)

ジャーナリスト兼テレビ司会者、バルカン・インフォ創設者

クロード・ジャンヴィエ(フランス)

作家、エッセイスト、コラムニスト

エリック・ウォルバーグ(カナダ)

地政学の専門家および著者

ヴァレリー・ブゴー(フランス)

法学者で地政学分析官;法学者

アドリアン・サルブチ(アルゼンチン)

政治アナリスト・作家

イヴァン・ベネデッティ(フランス)

イエローベスト運動の著名な指導者の一人

ヤニック・ソヴール(フランス)

作家・地政学分析家

ピエール・アントワーヌ・ブラクヴァン(フランス)

作家、政治アナリスト、国際コンサルタント。シンクタンク『ストラテギカ』および『ポレモ』ニューズレターの代表を務める

アルノー・ドヴレイ(フランス)

政治コンサルタントおよび国際法専門家

マイケル・スパス(アメリカ)

インディアナ中東平和センターの事務局長

朱浩曾(中国)

海口新潔倫文化メディア編集長

アントニオ・ゴメス・マルケス(ポルトガル)

引退した銀行取締役、エッセイスト

ハレ・ニアズマンド(アメリカ)

モデスト・ジュニアカレッジ美術教授、C・オンセプチュアル・アーティスト、キュレーター、美術評論家

クロード・ティーママン(フランス) 集団

遺伝学の生物学者、統計学者、研究者;エッセイスト、ヴールバール・ヴォルテールの評論家

ハフサ・カラ・ムスタファ(イギリス)

ジャーナリスト兼著者、アフリカ遺産財団グローバルオペレーション責任者

ジネット・ヘス・スカンドラニ(フランス)

反戦活動家でフランスの緑の党(Parti des Verts)のメンバー

ヤコブ・マヒ(ベルギー)

神学者・イスラム学者、イスラム学教授

アダム・シャミール(スウェーデン)

作家、ジャーナリスト、政治評論家

ジャン・ルー・イザンペール(フランス)

独立系調査報道ジャーナリスト・作家

ザファル・バンガシュ(カナダ)

トロント現代イスラム思想研究所所長

イマド・アムルーニ(フランス)

パリ地質アカデミー教授、中東問題の専門家

ジョー・イオスベイカー(アメリカ合衆国)

2024年民主党全国大会行進のコーディネーター、パレスチナと共に立ち向かう

リチャード・ヘイリー(イギリス)

スコットランド・アピスト・インスパイス・コミュニティ 議長

デイビッド・J・ライリー(アメリカ合衆国)

独立系ジャーナリスト、政治評論家、2020年アイダホ州知事選の元候補者

ナスリーン・メタイ(インド)

バラティア・ムスリム・マヒラ・アンドラン(BMMA)の創設メンバー;女性の権利に取り組むNGOです

キム・ピーターセン(アメリカ)

Dissident Voice ニュースレターの共同編集者

ステファノ・ボニラウリ(イタリア)

ジャーナリストおよびアンテオ・エディツィオーニの編集長

トビアス・プフェニツヒ(ドイツ)

ソフトウェアエンジニアおよび政治活動家

トニー・ゴズリング(イギリス)

調査報道ジャーナリストおよび政治活動家

張守良(中国)

海口仙潔倫文化メディア副編集長

スティーブン・サヒウニー(アメリカ)

受賞ジャーナリストであり、MidEastDiscourse 編集長

Ümit Aktaş(トルコ)

医師、ハーブ療法および鍼治療の専門家

イムラン・モハメド・ラシッド(マレーシア)、

シチズンズ・インターナショナル事務局長

アリー・バッカリ(ベルギー)

パルティ・イスラム党の会長、反戦活動家

ファトマ・オルゲル(トルコ)

エゼンラーククリニックの医師、反戦活動家

グルハン・エルトゥル(トルコ)

NGO「シチズン・イニシアティブ」のディレクター、反戦活動家

ルカ・アリーギ(イタリア)

論理学者であり、決定論的ガバナンスアーキテクチャの設計者

デイブ・キャノン(イギリス)

パレスチナ・ユダヤ人ネットワーク議長

ファトマ・アクドクール(トルコ)

神学講師、反戦活動家

フーマン・モルタザヴィ(カナダ)

弁護士・ソリシター、反戦活動家

Q マツソッド(インド)

ASEEM 書記、反戦活動家

リチャード・レイ(アメリカ)

編集者および反戦活動家

シャッピール・アリ・ワルシ(インド)

学者・反戦活動家

アッバス・アリ(英国)

インマインド人権グループ

ノーマ・ハシム(マレーシア)

ビバ・パレスチナ・マレーシアの会計係

サイディ・ノルディーネ(ベルギー)

ブリュッセル・パンテレスの共同スポークスパーソン

イクバル・ジャサット(南アフリカ)

メディアレビューネットワークのエグゼクティブメンバー

サイド・ファリード・ニザミ(インド)

学者・反戦活動家

アシフ・アリ・ザイディ(インド)

弁護士・研究者、反戦活動家

ケレム・アリ(英国)

パレスチナ・パルス スポークスパーソン

サイド・ムニス・アビディ(インド)

人権弁護士、反戦活動家

ジョー・ロリンツ(オーストラリア)

ニューサウスウェールズ州ウェントワースフォールズ

ムハド・レギフ(ベルギー)

ブルッセル・パンテレスの共同報道官

署名者は個人の身分で署名しており、所属は識別目的のみに過ぎません。